日刊 動労千葉

83. 8. 11

No. 1414

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

8・8集会での発言より

8・8集会―開会宣言

反対同盟本部役員・島村良助氏

8・8パイプライン供用を鳴物入りで宣伝している政府・公団に対し、まさしく二期工事に対する攻撃であり絶対に粉砕しなければならない。

開港といいながらも、まだ一日百七十回しか発着が行われていないが、二期工事が完成すれば一日八百回の離着陸が強行されるような情況がもたらされる。この北総台地が騒音のまっただ中にさらされることは火を見るよりも明らかです。

今、中曽根政権は軍事大国化の道へ真向から進んでおり、この空港が軍事利用されない証拠はどこにもなく、絶対に空港を作らせてはならない。

私どもは十八年間、皆さんとともに闘い、勝ちぬき、今後ともパイプラインを粉砕する決意です。

8・8集会に多くの方々が結集し、反対同盟の旗の下に闘っている姿をみたとき、本当に最後に勝利するんだという確信がわいてきました。

最後の勝利まで闘いぬきましょう。

「8・8パイプライン供用開始粉砕・二期阻止・空港廃港総決起集会」は、千葉市みなと公園に二四一三名を集め大成功をかちとりました。

本号では、島村良助さんの開会宣言と、主催者を代表してあいさつした動労千葉・関川委員長、三里塚芝山連合空港反対同盟・小川嘉吉さんの発言の要旨を掲載します。

主催者代表あいさつ

ジェット闘争の五年間が、本物の闘う陣形をつくった

動労千葉・関川委員長

本日、空港公団はパイプラインの供用開始という暴挙を行っています。私達はジェット燃料輸送、内陸部への空港建設の危険性を訴え闘ってきた。その民衆の憎悪を無視してゴリ押しした結果がこういう状況であります。

今、中曽根首相は日本を不沈空母にするとか、ソ連の脅威をとりのぞくとか四海峡封鎖という一方で、非核三原則を守るなどと風見鶏的なことをいっている。さらに許せないことは、広島現地で被爆者に「病は気からである」という無責任な発言を行ったことです。

だからこそ、われわれは声を大にしてこの政治を変える運動をすすめているのです。

私達は五年間、燃料輸送のハンドルを握りつつ、権力・当局・動労中央からのありとあらゆる弾圧を受けつつも闘ってきた。そして今日の動労千葉があり、三里塚闘争を支える全国の闘う陣形ができたと自負しています。

今、パイプライン供用開始にあたってわれわれのなすべきことは、三里塚闘争の絆を更にうち固め、組織の団結と闘争心を一層強固にし、反対同盟を支え二期阻止・空港廃港にむけて闘いぬくことです。われわれは反対同盟、全国の仲間とともに闘いぬく決意を表明してあいさつとします。

主催者代表あいさつ

農地死守で闘う同盟の前には、パイプラインも収用法も無力だ

反対同盟本部役員・小川嘉吉氏

本日のパイプライン供用は、住民の猛烈な反対にあって十一年間もの歳月をかけてつくり上げてきたものです。それにまた、国鉄の貨車による暫定輸送によって、空港を一九七八年に強行開港したものです。彼らは、「暫定輸送は三年間だけだ」という閣議決定を反古にして延長輸送を強要し、それに反対した動労千葉を不当にも処分してきました。

そのような上に立って、今日、パイプラインでの供用をしようということは、いかに手前勝手で、無謀なことかということを明らかにしなければなりません。

このパイプラインが完成したからといって、われわれ敷地内農民を追い出すようなことは絶対に許せません。われわれを追い出して空港を完成させる見通しのないままパイプラインを強行したわけです。

われわれを追い出すために、十余年前に土地収用法という伝家の宝刀をぬいたわけですが、収用法の手続きを一次から六次にこまぎれにして、われわれの土地について手続きをせず四年間も放置してきました。

四月二一日の収用委員会でただしてきましたが、何ら答えることができなかったということは、伝家の宝刀も幻になってしまったということです。

われわれが金で土地を放棄するならば、日本は民主主義も法もない無法状態を許すことになる。重大な責任をおっているんだということを心に誓って、今日のパイプライン供用開始に反対するごあいさつにしたいと思います。